

正誤表

書名

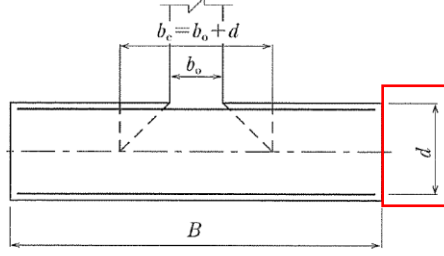
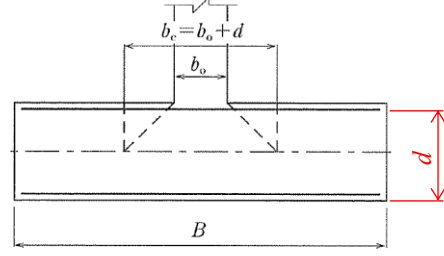
令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造

頁	項目	誤	正	対象刷																																				
320	8.8.1 解説	…参考文献 ^{10),11)} を参照して…	…参考文献 ^{5),6)} を参照して…	1～2 刷																																				
321	8.8.1 解説	<table><tr><th colspan="3">解説表 8.8.2 場所打ち杭および深礎杭の公称径の適用範囲</th></tr><tr><th>杭工法</th><th>公称径 (m)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>オールケーシング工法</td><td>(0.8), 1.0, 1.1, 1.2, 1.3, 1.5, 1.6, 1.8, 2.0, 2.3, 2.5, (2.8), 3.0</td><td>2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。</td></tr><tr><td>リバース工法</td><td>(0.8, 0.9), 1.0～3.0で0.1 m 刻み</td><td>2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。</td></tr><tr><td>アースドリル工法</td><td>(0.8, 0.9), 1.0～3.0で0.1 m 刻み</td><td>2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。</td></tr><tr><td>深礎工法</td><td>1.5, 2.0, 2.5, 3.0, 3.5, 4.0, 4.5, 5.0</td><td>3.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。</td></tr></table> () 内の杭径は、施工機械の市場性および施工性について、十分検討する必要がある。	解説表 8.8.2 場所打ち杭および深礎杭の公称径の適用範囲			杭工法	公称径 (m)	備 考	オールケーシング工法	(0.8), 1.0, 1.1, 1.2, 1.3, 1.5, 1.6, 1.8, 2.0, 2.3, 2.5, (2.8), 3.0	2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。	リバース工法	(0.8, 0.9), 1.0～3.0で0.1 m 刻み	2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。	アースドリル工法	(0.8, 0.9), 1.0～3.0で0.1 m 刻み	2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。	深礎工法	1.5, 2.0, 2.5, 3.0, 3.5, 4.0, 4.5, 5.0	3.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。	<table><tr><th colspan="3">解説表 8.8.2 場所打ち杭および深礎杭の公称径の適用範囲</th></tr><tr><th>杭工法</th><th>公称径 (m)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>オールケーシング工法</td><td>(0.8), 1.0, 1.1, 1.2, 1.3, 1.5, (1.6), 1.8, 2.0, 2.3, 2.5, (2.8), 3.0</td><td>2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。</td></tr><tr><td>リバース工法</td><td>(0.8, 0.9), 1.0～3.0で0.1 m 刻み</td><td>2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。</td></tr><tr><td>アースドリル工法</td><td>(0.8, 0.9), 1.0～3.0で0.1 m 刻み</td><td>2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。</td></tr><tr><td>深礎工法</td><td>1.5, 2.0, 2.5, 3.0, 3.5, 4.0, 4.5, 5.0</td><td>3.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。</td></tr></table> () 内の杭径は、施工機械の市場性および施工性について、十分検討する必要がある。	解説表 8.8.2 場所打ち杭および深礎杭の公称径の適用範囲			杭工法	公称径 (m)	備 考	オールケーシング工法	(0.8), 1.0, 1.1, 1.2, 1.3, 1.5, (1.6), 1.8, 2.0, 2.3, 2.5, (2.8), 3.0	2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。	リバース工法	(0.8, 0.9), 1.0～3.0で0.1 m 刻み	2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。	アースドリル工法	(0.8, 0.9), 1.0～3.0で0.1 m 刻み	2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。	深礎工法	1.5, 2.0, 2.5, 3.0, 3.5, 4.0, 4.5, 5.0	3.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。	1～2 刷
解説表 8.8.2 場所打ち杭および深礎杭の公称径の適用範囲																																								
杭工法	公称径 (m)	備 考																																						
オールケーシング工法	(0.8), 1.0, 1.1, 1.2, 1.3, 1.5, 1.6, 1.8, 2.0, 2.3, 2.5, (2.8), 3.0	2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。																																						
リバース工法	(0.8, 0.9), 1.0～3.0で0.1 m 刻み	2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。																																						
アースドリル工法	(0.8, 0.9), 1.0～3.0で0.1 m 刻み	2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。																																						
深礎工法	1.5, 2.0, 2.5, 3.0, 3.5, 4.0, 4.5, 5.0	3.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。																																						
解説表 8.8.2 場所打ち杭および深礎杭の公称径の適用範囲																																								
杭工法	公称径 (m)	備 考																																						
オールケーシング工法	(0.8), 1.0, 1.1, 1.2, 1.3, 1.5, (1.6), 1.8, 2.0, 2.3, 2.5, (2.8), 3.0	2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。																																						
リバース工法	(0.8, 0.9), 1.0～3.0で0.1 m 刻み	2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。																																						
アースドリル工法	(0.8, 0.9), 1.0～3.0で0.1 m 刻み	2.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。																																						
深礎工法	1.5, 2.0, 2.5, 3.0, 3.5, 4.0, 4.5, 5.0	3.0 m 超の杭径については、施工条件、地盤条件、基準支持力等の検討を十分行う。																																						
323	8.8.1 解説	…鉄筋かごを製作するのがよい ^{9),10)} 。	…鉄筋かごを製作するのがよい ^{8),9)} 。	1～2 刷																																				
323	8.8.1 解説	…含む本編のほか、参考文献 ^{8)～17)} を参照する。	…含む本編のほか、参考文献 ^{10)～19)} を参照する。	1～2 刷																																				
324	8.8.1 解説	…全周突き合わせアーク溶接を行う端版溶接継手 ^{18),19)} を基本としていたが、 …	…全周突き合わせアーク溶接を行う端版溶接継手 ^{20),21)} を基本としていたが、 …	1～2 刷																																				
324	8.8.1 解説	…使用される状況下にある ²⁰⁾ 。	…使用される状況下にある ²²⁾ 。	1～2 刷																																				
325	8.8.1 解説	…剛性が低下する一般的な結合方法である（解説図 8.8.4(a)） ^{21)～24)} 。	…剛性が低下する一般的な結合方法である（解説図 8.8.4(a)） ^{23)～26)} 。	1～2 刷																																				
325	8.8.1 解説	…生じないという実測結果もある ³¹⁾ 。	…生じないという実測結果もある ³³⁾ 。	1～2 刷																																				
327	8.8.1 解説	…の設計を行う必要がある ¹⁸⁾ 。	…の設計を行う必要がある ²⁰⁾ 。	1～2 刷																																				
328	8.8.3 解説	…スランプを 18～21cm を標準とする ³²⁾ 。	…スランプを 18～21cm を標準とする ³⁴⁾ 。	1～2 刷																																				
329	8.8.3 解説	…解説表 8.8.6 に示す値 ³³⁾ を標準とする。	…解説表 8.8.6 に示す値 ³⁵⁾ を標準とする。	1～2 刷																																				

正誤表

書名

令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造

頁	項目	誤	正	対象刷
329	8.8.3 解説	…低減係数を乗じて求めるものとする ^{34),35),36)} .	…低減係数を乗じて求めるものとする ^{36),37),38)} .	1~2 刷
335	8.8.5.2 解説	 解説図 8.8.9 上面が引張縁になる場合の有効幅	 解説図 8.8.9 上面が引張縁になる場合の有効幅	1~2 刷
340	8.8.5.3 解説	…段落し部での変形性能を考慮してもよい ^{37),38)} .	…段落し部での変形性能を考慮してもよい ^{41),42)} .	1~2 刷
344-345	参考文献	8) (社) コンクリートパイル建設技術協会:既製コンクリート杭ー基… 9) (社) コンクリートパイル建設技術協会:既製コンクリート杭の施… 10) (社) コンクリートパイル建設技術協会:コンクリートパイルに…	8) 秋重博之：場所打ちコンクリート杭の無溶接工法の開発，基礎工，pp.68～71，2005.2 9) 森野達也，山崎貴之，西岡英俊：整備新幹線における場所打ち杭の無溶接鉄筋組立の取組み，基礎工，Vol.38，No.11，pp.90-93，2010.11 10) (社) コンクリートパイル建設技術協会:既製コンクリート杭ー基… 11) (社) コンクリートパイル建設技術協会:既製コンクリート杭の施… 12) (社) コンクリートパイル建設技術協会:コンクリートパイルに…	1~2 刷

正誤表

書名	令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造
----	---

頁	項目	誤	正	対象刷
		11) (社) 日本道路協会：杭基礎設計便覧…	13) (社) 日本道路協会：杭基礎設計便覧…	
		12) (社) 日本道路協会：杭基礎施工便覧…	14) (社) 日本道路協会：杭基礎施工便覧…	
		13) 熊谷雄二…	15) 熊谷雄二…	
		14) 土田伸治…	16) 土田伸治…	
		15) 窪田充…	17) 窪田充…	
		16) 加藤洋一…	18) 加藤洋一…	
		17) 土田伸治…	19) 土田伸治…	
		18) 村上浩…	20) 村上浩…	
		19) (社) コンクリートパイル建設技術協会…	21) (社) コンクリートパイル建設技術協会…	
		20) 北川勝…	22) 北川勝…	
		21) 谷村幸裕…	23) 谷村幸裕…	
		22) 大志万和也…	24) 大志万和也…	
		23) 平田尚…	25) 平田尚…	
		24) 江口聡…	26) 江口聡…	
		25) 神田政幸, 濱田吉貞, 青木一二三, 山東徹生 …	27) 神田政幸, 濱田吉貞, 青木一二三, 山東徹生 …	
		26) 山崎貴之…	28) 山崎貴之…	
		27) 青木一二三…	29) 青木一二三…	
		28) 神田政幸, 濱田吉貞, 山東徹生, 青木一二三 …	30) 神田政幸, 濱田吉貞, 山東徹生, 青木一二三 …	
		29) 西岡英俊, 青木一二三, 神田政幸, 濱田吉貞 …	31) 西岡英俊, 青木一二三, 神田政幸, 濱田吉貞 …	

正誤表

書名

令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造

頁	項目	誤	正	対象刷
		30) 神田政幸, 青木一二三, 山東徹生, 山崎貴之, 丸山修… 31) 古藤田喜久雄… 32) 土木学会… 33) 西川佳祐, 渡辺忠朋… 34) 渡辺忠朋, 村田修, 谷口善則: 場所打ち RC 杭の圧縮強度… 35) 渡辺忠朋, 村田修, 谷口善則: 場所打ち RC 杭の曲げ・せん断性状… 36) 神田政幸, 西村昌宏, 西岡英俊, 千葉佳敬… 37) 轟俊太郎, 西岡英俊, 田所敏弥, 谷村幸裕, 米澤豊司… 38) 西村昌宏, 西岡英俊, 室野剛隆, 米澤豊司, 清田三四郎… 39) 轟俊太郎, 田所敏弥, 谷村幸裕, 進藤良則: せん断スパン比の… 40) 轟俊太郎, 田所敏弥, 谷村幸裕, 進藤良則: 上側引張を…	32) 神田政幸, 青木一二三, 山東徹生, 山崎貴之, 丸山修… 33) 古藤田喜久雄… 34) 土木学会… 35) 西川佳祐, 渡辺忠朋… 36) 渡辺忠朋, 村田修, 谷口善則: 場所打ち RC 杭の圧縮強度… 37) 渡辺忠朋, 村田修, 谷口善則: 場所打ち RC 杭の曲げ・せん断性状… 38) 神田政幸, 西村昌宏, 西岡英俊, 千葉佳敬… 39) 轟俊太郎, 田所敏弥, 谷村幸裕, 進藤良則: せん断スパン比の… 40) 轟俊太郎, 田所敏弥, 谷村幸裕, 進藤良則: 上側引張を… 41) 轟俊太郎, 西岡英俊, 田所敏弥, 谷村幸裕, 米澤豊司… 42) 西村昌宏, 西岡英俊, 室野剛隆, 米澤豊司, 清田三四郎…	

以上, 2026年10月8日追加 (第6報)

正誤表

書名

令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造

頁	項目	誤	正	対象刷
169	式（解5.2.8）	$\delta_s = \int \gamma dx$ $= \int \frac{1}{z(\cot \theta + \cot \alpha)^2} \left[\frac{V_{sd}}{E_c b_w \sin^4 \theta} \right. \\ \left. + \frac{V_{sd} \cdot S}{E_w \left(A_w + \frac{E_c}{E_w} A_{ce} \right) \sin^3 \alpha} \right] dx$	$\delta_s = \int \gamma dx$ $= \int \frac{1}{z(\cot \theta + \cot \alpha)^2} \left[\frac{V_{sd}}{E_c b_w \sin^4 \theta} \right. \\ \left. + \frac{V_{sd} \cdot \textcolor{red}{S}}{E_w \left(A_w + \frac{E_c}{E_w} A_{ce} \right) \sin^3 \alpha} \right] dx$	1刷

以上，2024年1月9日追加（第5報）

正誤表

書名	令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造
----	---

頁	項目	誤	正	対象刷
235	式（解 7.5.11）	$C = \frac{h_0}{t_1} + \frac{h_0}{t_2} + \frac{h_0}{t_3} + \frac{h_0}{t_4}$	$C = \frac{h_0}{t_1} + \frac{b_0}{t_2} + \frac{h_0}{t_3} + \frac{b_0}{t_4}$	1 刷

以上，2023 年 12 月 13 日追加（第 4 報）

正誤表

書名

 令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造

頁	項目	誤	正	対象刷
268	式(7.7.34)	$M_{\text{tud}} = (M_{\text{tu min}} - 0.2M_{\text{tcd}}) \cdot \sqrt{(1 - \gamma_i \cdot M_d)/M_{\text{ud}}} + 0.2M_{\text{tcd}}$	$M_{\text{tud}} = (M_{\text{tu min}} - 0.2M_{\text{tcd}}) \cdot \sqrt{1 - \gamma_i \cdot M_d /M_{\text{ud}}} + 0.2M_{\text{tcd}}$	1刷
268-269	7.7.6.2 (5) (6)	M_{tumin}	$M_{\text{tu min}}$ ※「tu」と「min」の間にスペースを入れる	1刷

以上，2023年9月1日追加（第3報）

正誤表

書名 令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造

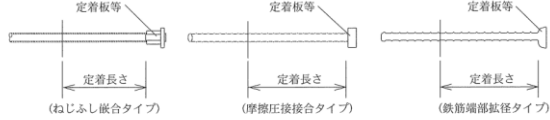
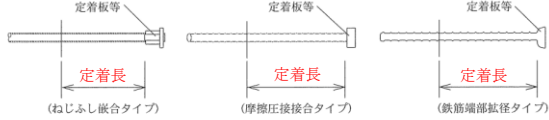
頁	項目	誤	正	対象刷																																																																																																																																																																																																																																								
390	付属表 3-1.5	付属表 3-1.5 塩化物イオンの侵入に伴う鋼材の腐食に関する検討から定まる設計かぶり (単位: mm) (普通ボルトランドセメント) (a) ひび割れあり <table><tr><th rowspan="2">材料 係数 γ_c</th><th rowspan="2">海岸線からの 距離 水セメント比</th><th colspan="4">S1 地域</th><th colspan="2">S2 地域</th></tr><tr><th>0.1 km</th><th>0.25 km</th><th>0.5 km</th><th>1.0 km</th><th>0.1 km</th><th>0.25 km</th></tr><tr><td rowspan="3">1.0</td><td>45 %</td><td>110</td><td>55</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>50 %</td><td>125</td><td>70</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>55 %</td><td>140</td><td>85</td><td>50</td><td>—</td><td>50</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="3">1.3</td><td>45 %</td><td>115</td><td>60</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>50 %</td><td>130</td><td>70</td><td>40</td><td>—</td><td>40</td><td>—</td></tr><tr><td>55 %</td><td>150</td><td>90</td><td>55</td><td>—</td><td>50</td><td>—</td></tr></table> (b) ひび割れなし <table><tr><th rowspan="2">材料 係数 γ_c</th><th rowspan="2">海岸線からの 距離 水セメント比</th><th colspan="4">S1 地域</th><th colspan="2">S2 地域</th></tr><tr><th>0.1 km</th><th>0.25 km</th><th>0.5 km</th><th>1.0 km</th><th>0.1 km</th><th>0.25 km</th></tr><tr><td rowspan="3">1.0</td><td>45 %</td><td>70</td><td>35</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>50 %</td><td>85</td><td>50</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>55 %</td><td>105</td><td>65</td><td>40</td><td>—</td><td>40</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="3">1.3</td><td>45 %</td><td>75</td><td>40</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>50 %</td><td>95</td><td>55</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>55 %</td><td>115</td><td>70</td><td>45</td><td>—</td><td>45</td><td>—</td></tr></table>	材料 係数 γ_c	海岸線からの 距離 水セメント比	S1 地域				S2 地域		0.1 km	0.25 km	0.5 km	1.0 km	0.1 km	0.25 km	1.0	45 %	110	55	—	—	—	—	50 %	125	70	—	—	—	—	55 %	140	85	50	—	50	—	1.3	45 %	115	60	—	—	—	—	50 %	130	70	40	—	40	—	55 %	150	90	55	—	50	—	材料 係数 γ_c	海岸線からの 距離 水セメント比	S1 地域				S2 地域		0.1 km	0.25 km	0.5 km	1.0 km	0.1 km	0.25 km	1.0	45 %	70	35	—	—	—	—	50 %	85	50	—	—	—	—	55 %	105	65	40	—	40	—	1.3	45 %	75	40	—	—	—	—	50 %	95	55	—	—	—	—	55 %	115	70	45	—	45	—	付属表 3-1.5 塩化物イオンの侵入に伴う鋼材の腐食に関する検討から定まる設計かぶり (単位: mm) (普通ボルトランドセメント) (a) ひび割れあり <table><tr><th rowspan="2">材料 係数 γ_c</th><th rowspan="2">海岸線からの 距離 水セメント比</th><th colspan="4">S1 地域</th><th colspan="2">S2 地域</th></tr><tr><th>0.1 km</th><th>0.25 km</th><th>0.5 km</th><th>1.0 km</th><th>0.1 km</th><th>0.25 km</th></tr><tr><td rowspan="3">1.0</td><td>45 %</td><td>110</td><td>55</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>50 %</td><td>125</td><td>70</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>55 %</td><td>140</td><td>85</td><td>50</td><td>—</td><td>50</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="3">1.3</td><td>45 %</td><td>115</td><td>60</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>50 %</td><td>130</td><td>70</td><td>40</td><td>—</td><td>40</td><td>—</td></tr><tr><td>55 %</td><td>150</td><td>90</td><td>55</td><td>—</td><td>55</td><td>—</td></tr></table> (b) ひび割れなし <table><tr><th rowspan="2">材料 係数 γ_c</th><th rowspan="2">海岸線からの 距離 水セメント比</th><th colspan="4">S1 地域</th><th colspan="2">S2 地域</th></tr><tr><th>0.1 km</th><th>0.25 km</th><th>0.5 km</th><th>1.0 km</th><th>0.1 km</th><th>0.25 km</th></tr><tr><td rowspan="3">1.0</td><td>45 %</td><td>70</td><td>35</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>50 %</td><td>85</td><td>50</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>55 %</td><td>105</td><td>65</td><td>40</td><td>—</td><td>40</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="3">1.3</td><td>45 %</td><td>75</td><td>40</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>50 %</td><td>95</td><td>55</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>55 %</td><td>115</td><td>70</td><td>45</td><td>—</td><td>45</td><td>—</td></tr></table>	材料 係数 γ_c	海岸線からの 距離 水セメント比	S1 地域				S2 地域		0.1 km	0.25 km	0.5 km	1.0 km	0.1 km	0.25 km	1.0	45 %	110	55	—	—	—	—	50 %	125	70	—	—	—	—	55 %	140	85	50	—	50	—	1.3	45 %	115	60	—	—	—	—	50 %	130	70	40	—	40	—	55 %	150	90	55	—	55	—	材料 係数 γ_c	海岸線からの 距離 水セメント比	S1 地域				S2 地域		0.1 km	0.25 km	0.5 km	1.0 km	0.1 km	0.25 km	1.0	45 %	70	35	—	—	—	—	50 %	85	50	—	—	—	—	55 %	105	65	40	—	40	—	1.3	45 %	75	40	—	—	—	—	50 %	95	55	—	—	—	—	55 %	115	70	45	—	45	—	1 刷
材料 係数 γ_c	海岸線からの 距離 水セメント比	S1 地域				S2 地域																																																																																																																																																																																																																																						
		0.1 km	0.25 km	0.5 km	1.0 km	0.1 km	0.25 km																																																																																																																																																																																																																																					
1.0	45 %	110	55	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	50 %	125	70	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	55 %	140	85	50	—	50	—																																																																																																																																																																																																																																					
1.3	45 %	115	60	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	50 %	130	70	40	—	40	—																																																																																																																																																																																																																																					
	55 %	150	90	55	—	50	—																																																																																																																																																																																																																																					
材料 係数 γ_c	海岸線からの 距離 水セメント比	S1 地域				S2 地域																																																																																																																																																																																																																																						
		0.1 km	0.25 km	0.5 km	1.0 km	0.1 km	0.25 km																																																																																																																																																																																																																																					
1.0	45 %	70	35	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	50 %	85	50	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	55 %	105	65	40	—	40	—																																																																																																																																																																																																																																					
1.3	45 %	75	40	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	50 %	95	55	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	55 %	115	70	45	—	45	—																																																																																																																																																																																																																																					
材料 係数 γ_c	海岸線からの 距離 水セメント比	S1 地域				S2 地域																																																																																																																																																																																																																																						
		0.1 km	0.25 km	0.5 km	1.0 km	0.1 km	0.25 km																																																																																																																																																																																																																																					
1.0	45 %	110	55	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	50 %	125	70	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	55 %	140	85	50	—	50	—																																																																																																																																																																																																																																					
1.3	45 %	115	60	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	50 %	130	70	40	—	40	—																																																																																																																																																																																																																																					
	55 %	150	90	55	—	55	—																																																																																																																																																																																																																																					
材料 係数 γ_c	海岸線からの 距離 水セメント比	S1 地域				S2 地域																																																																																																																																																																																																																																						
		0.1 km	0.25 km	0.5 km	1.0 km	0.1 km	0.25 km																																																																																																																																																																																																																																					
1.0	45 %	70	35	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	50 %	85	50	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	55 %	105	65	40	—	40	—																																																																																																																																																																																																																																					
1.3	45 %	75	40	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	50 %	95	55	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																					
	55 %	115	70	45	—	45	—																																																																																																																																																																																																																																					

以上，2023 年 8 月 4 日追加（第 2 報）

正誤表

書名

 令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造

頁	項目	誤	正	対象刷
53	2.3.7.5 解説図 2.3.21(b)	$\geq l_{d0}$	$\geq l_0$	1刷
56	解説図 2.3.27	 解説図 2.3.27 マッシブなコンクリートへの機械式定着の定着長さ l_{d0}	 解説図 2.3.27 マッシブなコンクリートへの機械式定着の定着長	1刷
122	式（解 4.2.11）	E_{ct} ：載荷時の有効材齢 t' （日）におけるコンクリートのヤング係数（kN）	E_{ct} ：載荷時の有効材齢 t' （日）におけるコンクリートのヤング係数（ kN/mm^2 ）	1刷
153	4.4.7 解説	（１）について	（２）について	1刷

正誤表

書名	令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造
----	---

頁	項目	誤	正	対象刷
154	4.4.7 解説	(2) について	(3) について	1 刷
154	4.4.7 解説	(3) について	(4) について	1 刷
155	4.4.7 解説	(4) について	(5) について	1 刷

正誤表

書名

令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造

頁	項目	誤	正	対象刷																																																																																																																																																																																				
192～ 193	解説表 6.1.2	解説表 6.1.2 単純梁橋における照査指標、設計応答値および設計限界値 <table><tr><th>要求性能</th><th>限界状態 (記載箇所)</th><th>照査指標</th><th>面材の 作 用</th><th>設 計 応 答 値</th><th>設計限界値</th><th>記載箇所</th></tr><tr><td rowspan="12">安全性</td><td rowspan="6">橋梁 安全 性</td><td rowspan="3">破壊</td><td rowspan="3">力 (棒部材)</td><td>—</td><td>M_d V_d M_{ed} M_{ed} N'_{ed}</td><td>M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed} N'_{ed}, N'_{ed}</td><td>横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6 横りよう編 7.7.1</td></tr><tr><td rowspan="2">力 (面材)</td><td>面外力</td><td>V_d C_d</td><td>V_{ed}, V_{ed}, V_{ed} C_{ed}</td><td>8.3.4 7.7.3 7.7.4 7.7.4</td></tr><tr><td>面内力</td><td>T_{ed}, T_{ed}</td><td>T_{ed}, T_{ed}</td><td>7.7.4 7.7.4</td></tr><tr><td rowspan="3">疲労破壊</td><td rowspan="3">応力度</td><td rowspan="3">—</td><td>σ_{ed} σ_{ed} σ_{ed}</td><td>f_{ed}/f_k f_{ed}/f_k f_{ed}/f_k</td><td>7.5 4.3.2 7.5 4.3.2 7.5 4.3.2</td></tr><tr><td rowspan="3">力 (棒部材)</td><td rowspan="3">—</td><td>V_d</td><td>V_{ed}</td><td>横りよう編 7.8</td></tr><tr><td>力 (面材)</td><td>V_d</td><td>V_{ed}</td><td>横りよう編 7.8</td></tr><tr><td rowspan="12">使用性</td><td rowspan="6">損傷</td><td rowspan="3">力 (棒部材)</td><td rowspan="3">—</td><td>M_d V_d M_{ed} M_{ed}</td><td>M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed}</td><td>横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6</td></tr><tr><td rowspan="2">力 (面材)</td><td>面外力</td><td>V_d C_d</td><td>V_{ed}, V_{ed} C_{ed}</td><td>8.3.4 7.7.3 7.7.4 7.7.4</td></tr><tr><td>面内力</td><td>T_{ed}, T_{ed}</td><td>T_{ed}, T_{ed}</td><td>7.7.4 7.7.4</td></tr><tr><td rowspan="3">変形</td><td rowspan="3">—</td><td>θ_d ϕ_d δ_d</td><td>θ_{ed}, θ_{ed} ϕ_{ed}, ϕ_{ed} δ_{ed}, δ_{ed}</td><td>横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3</td></tr><tr><td>ひび割れ幅</td><td>—</td><td>w_d</td><td>w_{ed}</td><td>7.8.1 8.5</td></tr><tr><td>鉄筋の 応力度</td><td>—</td><td>σ_d</td><td>σ_{ed}</td><td>7.5.1 3.3.2</td></tr><tr><td rowspan="6">耐久性</td><td rowspan="3">損傷</td><td rowspan="3">力 (棒部材)</td><td rowspan="3">—</td><td>M_d V_d M_{ed} M_{ed}</td><td>M_{ed}, M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed}</td><td>横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6</td></tr><tr><td rowspan="2">変形</td><td rowspan="2">—</td><td>θ_d ϕ_d</td><td>$\theta_{ed}, \theta_{ed}, \theta_{ed}$ $\phi_{ed}, \phi_{ed}, \phi_{ed}$</td><td>横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3, 7.9.1</td></tr><tr><td>δ_d</td><td>$\delta_{ed}, \delta_{ed}, \delta_{ed}$</td><td>横りよう編 8.6.3</td></tr><tr><td rowspan="3">鉄筋の 応力度</td><td rowspan="3">—</td><td>σ_d</td><td>σ_{ed}</td><td>7.5.1 3.3.2</td></tr></table>	要求性能	限界状態 (記載箇所)	照査指標	面材の 作 用	設 計 応 答 値	設計限界値	記載箇所	安全性	橋梁 安全 性	破壊	力 (棒部材)	—	M_d V_d M_{ed} M_{ed} N'_{ed}	M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed} N'_{ed}, N'_{ed}	横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6 横りよう編 7.7.1	力 (面材)	面外力	V_d C_d	V_{ed}, V_{ed}, V_{ed} C_{ed}	8.3.4 7.7.3 7.7.4 7.7.4	面内力	T_{ed}, T_{ed}	T_{ed}, T_{ed}	7.7.4 7.7.4	疲労破壊	応力度	—	σ_{ed} σ_{ed} σ_{ed}	f_{ed}/f_k f_{ed}/f_k f_{ed}/f_k	7.5 4.3.2 7.5 4.3.2 7.5 4.3.2	力 (棒部材)	—	V_d	V_{ed}	横りよう編 7.8	力 (面材)	V_d	V_{ed}	横りよう編 7.8	使用性	損傷	力 (棒部材)	—	M_d V_d M_{ed} M_{ed}	M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed}	横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6	力 (面材)	面外力	V_d C_d	V_{ed}, V_{ed} C_{ed}	8.3.4 7.7.3 7.7.4 7.7.4	面内力	T_{ed}, T_{ed}	T_{ed}, T_{ed}	7.7.4 7.7.4	変形	—	θ_d ϕ_d δ_d	θ_{ed}, θ_{ed} ϕ_{ed}, ϕ_{ed} δ_{ed}, δ_{ed}	横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3	ひび割れ幅	—	w_d	w_{ed}	7.8.1 8.5	鉄筋の 応力度	—	σ_d	σ_{ed}	7.5.1 3.3.2	耐久性	損傷	力 (棒部材)	—	M_d V_d M_{ed} M_{ed}	M_{ed}, M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed}	横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6	変形	—	θ_d ϕ_d	$\theta_{ed}, \theta_{ed}, \theta_{ed}$ $\phi_{ed}, \phi_{ed}, \phi_{ed}$	横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3, 7.9.1	δ_d	$\delta_{ed}, \delta_{ed}, \delta_{ed}$	横りよう編 8.6.3	鉄筋の 応力度	—	σ_d	σ_{ed}	7.5.1 3.3.2	解説表 6.1.2 単純梁橋における照査指標、設計応答値および設計限界値 <table><tr><th>要求性能</th><th>限界状態 (記載箇所)</th><th>照査指標</th><th>面材の 作 用</th><th>設 計 応 答 値</th><th>設計限界値</th><th>記載箇所</th></tr><tr><td rowspan="12">安全性</td><td rowspan="6">橋梁 安全 性</td><td rowspan="3">破壊 (6.3)</td><td rowspan="3">力 (棒部材)</td><td>—</td><td>M_d V_d M_{ed} M_{ed} N'_{ed}</td><td>M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed} N'_{ed}, N'_{ed}</td><td>横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6 横りよう編 7.7.1</td></tr><tr><td rowspan="2">力 (面材)</td><td>面外力</td><td>V_d C_d</td><td>V_{ed}, V_{ed}, V_{ed} C_{ed}</td><td>8.3.4 7.7.3 7.7.4 7.7.4</td></tr><tr><td>面内力</td><td>T_{ed}, T_{ed}</td><td>T_{ed}, T_{ed}</td><td>7.7.4 7.7.4</td></tr><tr><td rowspan="3">疲労破壊 (6.4)</td><td rowspan="3">応力度</td><td rowspan="3">—</td><td>σ_{ed} σ_{ed} σ_{ed}</td><td>f_{ed}/f_k f_{ed}/f_k f_{ed}/f_k</td><td>7.5 4.3.2 7.5 4.3.2 7.5 4.3.2</td></tr><tr><td rowspan="3">力 (棒部材)</td><td rowspan="3">—</td><td>V_d</td><td>V_{ed}</td><td>横りよう編 7.8</td></tr><tr><td>力 (面材)</td><td>V_d</td><td>V_{ed}</td><td>横りよう編 7.8</td></tr><tr><td rowspan="12">使用性</td><td rowspan="6">損傷 (6.6)</td><td rowspan="3">力 (棒部材)</td><td rowspan="3">—</td><td>M_d V_d M_{ed} M_{ed}</td><td>M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed}</td><td>横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6</td></tr><tr><td rowspan="2">力 (面材)</td><td>面外力</td><td>V_d C_d</td><td>V_{ed}, V_{ed} C_{ed}</td><td>8.3.4 7.7.3 7.7.4 7.7.4</td></tr><tr><td>面内力</td><td>T_{ed}, T_{ed}</td><td>T_{ed}, T_{ed}</td><td>7.7.4 7.7.4</td></tr><tr><td rowspan="3">変形</td><td rowspan="3">—</td><td>θ_d ϕ_d δ_d</td><td>θ_{ed}, θ_{ed} ϕ_{ed}, ϕ_{ed} δ_{ed}, δ_{ed}</td><td>横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3</td></tr><tr><td>ひび割れ幅</td><td>—</td><td>w_d</td><td>w_{ed}</td><td>7.8.1 8.5</td></tr><tr><td>鉄筋の 応力度</td><td>—</td><td>σ_d</td><td>σ_{ed}</td><td>7.5.1 3.3.2</td></tr><tr><td rowspan="6">耐久性</td><td rowspan="3">損傷 (6.6)</td><td rowspan="3">力 (棒部材)</td><td rowspan="3">—</td><td>M_d V_d M_{ed} M_{ed}</td><td>M_{ed}, M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed}</td><td>横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6</td></tr><tr><td rowspan="2">変形</td><td rowspan="2">—</td><td>θ_d ϕ_d</td><td>$\theta_{ed}, \theta_{ed}, \theta_{ed}$ $\phi_{ed}, \phi_{ed}, \phi_{ed}$</td><td>横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3, 7.9.1</td></tr><tr><td>δ_d</td><td>$\delta_{ed}, \delta_{ed}, \delta_{ed}$</td><td>横りよう編 8.6.3</td></tr><tr><td rowspan="3">鉄筋の 応力度</td><td rowspan="3">—</td><td>σ_d</td><td>σ_{ed}</td><td>7.5.1 3.3.2</td></tr></table>	要求性能	限界状態 (記載箇所)	照査指標	面材の 作 用	設 計 応 答 値	設計限界値	記載箇所	安全性	橋梁 安全 性	破壊 (6.3)	力 (棒部材)	—	M_d V_d M_{ed} M_{ed} N'_{ed}	M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed} N'_{ed}, N'_{ed}	横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6 横りよう編 7.7.1	力 (面材)	面外力	V_d C_d	V_{ed}, V_{ed}, V_{ed} C_{ed}	8.3.4 7.7.3 7.7.4 7.7.4	面内力	T_{ed}, T_{ed}	T_{ed}, T_{ed}	7.7.4 7.7.4	疲労破壊 (6.4)	応力度	—	σ_{ed} σ_{ed} σ_{ed}	f_{ed}/f_k f_{ed}/f_k f_{ed}/f_k	7.5 4.3.2 7.5 4.3.2 7.5 4.3.2	力 (棒部材)	—	V_d	V_{ed}	横りよう編 7.8	力 (面材)	V_d	V_{ed}	横りよう編 7.8	使用性	損傷 (6.6)	力 (棒部材)	—	M_d V_d M_{ed} M_{ed}	M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed}	横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6	力 (面材)	面外力	V_d C_d	V_{ed}, V_{ed} C_{ed}	8.3.4 7.7.3 7.7.4 7.7.4	面内力	T_{ed}, T_{ed}	T_{ed}, T_{ed}	7.7.4 7.7.4	変形	—	θ_d ϕ_d δ_d	θ_{ed}, θ_{ed} ϕ_{ed}, ϕ_{ed} δ_{ed}, δ_{ed}	横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3	ひび割れ幅	—	w_d	w_{ed}	7.8.1 8.5	鉄筋の 応力度	—	σ_d	σ_{ed}	7.5.1 3.3.2	耐久性	損傷 (6.6)	力 (棒部材)	—	M_d V_d M_{ed} M_{ed}	M_{ed}, M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed}	横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6	変形	—	θ_d ϕ_d	$\theta_{ed}, \theta_{ed}, \theta_{ed}$ $\phi_{ed}, \phi_{ed}, \phi_{ed}$	横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3, 7.9.1	δ_d	$\delta_{ed}, \delta_{ed}, \delta_{ed}$	横りよう編 8.6.3	鉄筋の 応力度	—	σ_d	σ_{ed}	7.5.1 3.3.2	1 刷
要求性能	限界状態 (記載箇所)	照査指標	面材の 作 用	設 計 応 答 値	設計限界値	記載箇所																																																																																																																																																																																		
安全性	橋梁 安全 性	破壊	力 (棒部材)	—	M_d V_d M_{ed} M_{ed} N'_{ed}	M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed} N'_{ed}, N'_{ed}	横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6 横りよう編 7.7.1																																																																																																																																																																																	
				力 (面材)	面外力	V_d C_d	V_{ed}, V_{ed}, V_{ed} C_{ed}	8.3.4 7.7.3 7.7.4 7.7.4																																																																																																																																																																																
					面内力	T_{ed}, T_{ed}	T_{ed}, T_{ed}	7.7.4 7.7.4																																																																																																																																																																																
		疲労破壊	応力度	—	σ_{ed} σ_{ed} σ_{ed}	f_{ed}/f_k f_{ed}/f_k f_{ed}/f_k	7.5 4.3.2 7.5 4.3.2 7.5 4.3.2																																																																																																																																																																																	
					力 (棒部材)	—	V_d	V_{ed}	横りよう編 7.8																																																																																																																																																																															
							力 (面材)	V_d	V_{ed}		横りよう編 7.8																																																																																																																																																																													
	使用性	損傷	力 (棒部材)	—			M_d V_d M_{ed} M_{ed}	M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed}	横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6																																																																																																																																																																															
					力 (面材)	面外力	V_d C_d	V_{ed}, V_{ed} C_{ed}	8.3.4 7.7.3 7.7.4 7.7.4																																																																																																																																																																															
						面内力	T_{ed}, T_{ed}	T_{ed}, T_{ed}	7.7.4 7.7.4																																																																																																																																																																															
			変形	—	θ_d ϕ_d δ_d	θ_{ed}, θ_{ed} ϕ_{ed}, ϕ_{ed} δ_{ed}, δ_{ed}	横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3																																																																																																																																																																																	
					ひび割れ幅	—	w_d	w_{ed}	7.8.1 8.5																																																																																																																																																																															
					鉄筋の 応力度	—	σ_d	σ_{ed}	7.5.1 3.3.2																																																																																																																																																																															
耐久性		損傷	力 (棒部材)	—	M_d V_d M_{ed} M_{ed}	M_{ed}, M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed}	横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6																																																																																																																																																																																	
					変形	—	θ_d ϕ_d	$\theta_{ed}, \theta_{ed}, \theta_{ed}$ $\phi_{ed}, \phi_{ed}, \phi_{ed}$	横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3, 7.9.1																																																																																																																																																																															
							δ_d	$\delta_{ed}, \delta_{ed}, \delta_{ed}$	横りよう編 8.6.3																																																																																																																																																																															
		鉄筋の 応力度	—	σ_d	σ_{ed}	7.5.1 3.3.2																																																																																																																																																																																		
				要求性能	限界状態 (記載箇所)	照査指標	面材の 作 用	設 計 応 答 値	設計限界値	記載箇所																																																																																																																																																																														
				安全性	橋梁 安全 性	破壊 (6.3)	力 (棒部材)	—	M_d V_d M_{ed} M_{ed} N'_{ed}	M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed} N'_{ed}, N'_{ed}	横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6 横りよう編 7.7.1																																																																																																																																																																													
力 (面材)	面外力	V_d C_d	V_{ed}, V_{ed}, V_{ed} C_{ed}					8.3.4 7.7.3 7.7.4 7.7.4																																																																																																																																																																																
	面内力	T_{ed}, T_{ed}	T_{ed}, T_{ed}					7.7.4 7.7.4																																																																																																																																																																																
疲労破壊 (6.4)	応力度	—	σ_{ed} σ_{ed} σ_{ed}			f_{ed}/f_k f_{ed}/f_k f_{ed}/f_k	7.5 4.3.2 7.5 4.3.2 7.5 4.3.2																																																																																																																																																																																	
			力 (棒部材)			—	V_d	V_{ed}	横りよう編 7.8																																																																																																																																																																															
							力 (面材)	V_d	V_{ed}	横りよう編 7.8																																																																																																																																																																														
使用性	損傷 (6.6)	力 (棒部材)			—		M_d V_d M_{ed} M_{ed}	M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed}	横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6																																																																																																																																																																															
			力 (面材)			面外力	V_d C_d	V_{ed}, V_{ed} C_{ed}	8.3.4 7.7.3 7.7.4 7.7.4																																																																																																																																																																															
						面内力	T_{ed}, T_{ed}	T_{ed}, T_{ed}	7.7.4 7.7.4																																																																																																																																																																															
		変形	—		θ_d ϕ_d δ_d	θ_{ed}, θ_{ed} ϕ_{ed}, ϕ_{ed} δ_{ed}, δ_{ed}	横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3																																																																																																																																																																																	
					ひび割れ幅	—	w_d	w_{ed}	7.8.1 8.5																																																																																																																																																																															
					鉄筋の 応力度	—	σ_d	σ_{ed}	7.5.1 3.3.2																																																																																																																																																																															
	耐久性	損傷 (6.6)	力 (棒部材)	—	M_d V_d M_{ed} M_{ed}	M_{ed}, M_{ed} $V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}, V_{ed}$ M_{ed}, M_{ed}	横りよう編 7.7.1 横りよう編 7.7.2 横りよう編 7.7.6																																																																																																																																																																																	
					変形	—	θ_d ϕ_d	$\theta_{ed}, \theta_{ed}, \theta_{ed}$ $\phi_{ed}, \phi_{ed}, \phi_{ed}$	横りよう編 8.6.3, 7.9.1 横りよう編 8.6.3, 7.9.1																																																																																																																																																																															
							δ_d	$\delta_{ed}, \delta_{ed}, \delta_{ed}$	横りよう編 8.6.3																																																																																																																																																																															
		鉄筋の 応力度	—	σ_d	σ_{ed}	7.5.1 3.3.2																																																																																																																																																																																		
				197	6.3.2 解説	…適用性が確かめられたものである ^{1)～4)} 。	…適用性が確かめられたものである ^{1)～5)} 。	1 刷																																																																																																																																																																																

正誤表

書名	令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造
----	---

頁	項目	誤	正	対象刷
197	6.3.2 解説	…ほぼ等価な結果が得られる ⁵⁾ 。	…ほぼ等価な結果が得られる ²⁾ 。	1 刷
217	参考文献	5) 土屋智史，牧剛史，斉藤成彦，渡邊忠朋，前川宏一：非線形有限要素解析による RC 面部材の損傷指標と耐力評価，土木学会論文集 E2（材料・コンクリート構造），Vol.68，No.3，pp.209-22，2012.	5) 牧剛史，土屋智史，斉藤成彦，渡邊忠朋：コンクリートの損傷指標を用いた RC 部材の三次元耐荷機構の数値解析的評価，土木学会論文集 E2（材料・コンクリート構造），Vol.78，No.1，pp.121-137，2022.	1 刷
238	7.6.1 解説	…これまでの研究 ^{6),7)} によると，	…これまでの研究 ^{6),7),8)} によると，	1 刷
238	7.6.1 解説	…を参考に定めたものである ⁷⁾ 。	…を参考に定めたものである。	1 刷

正誤表

書名	令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造
----	---

頁	項目	誤	正	対象刷
242	7.7.1 解説	…異なることが実験的に明らかにされている ⁸⁾ 。	…異なることが実験的に明らかにされている ⁹⁾ 。	1刷
246	7.7.2.1 解説	…既往の研究成果 ⁹⁾ により得られた…	…既往の研究成果 ¹⁰⁾ により得られた…	1刷
248	7.7.2.1 解説	…実験結果と良好な適合性を得られていることが確かめられている ¹⁰⁾ 。	…実験結果と良好な適合性を得られていることが確かめられている ¹²⁾ 。	1刷
248	7.7.2.1 解説	…計算上のせん断補強鋼材が受け持つせん断耐力までせん断耐力が増加しない場合がある。	…計算上のせん断補強鋼材が受け持つせん断耐力までせん断耐力が増加しない場合がある ^{13), 14)} 。	1刷

正誤表

書名	令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造
----	---

頁	項目	誤	正	対象刷
248	7.7.2.1 解説	…数値解析法を用いた検討によって定められたものである ^{11),13)} 。	…数値解析法を用いた検討によって定められたものである ¹³⁾ 。	1刷
248	7.7.2.1 解説	…仮想トラスの引張腹材としてせん断力の抵抗が十分に発揮できない場合がある ^{14),15),16)} 。	…仮想トラスの引張腹材としてせん断力の抵抗が十分に発揮できない場合がある ^{15),16),17)} 。	1刷
249	7.7.2.1 解説	…その妥当性が検証されたため ¹⁷⁾ ,	…その妥当性が検証されたため ¹⁸⁾ ,	1刷
249	7.7.2.1 解説	ここでは、既往の研究成果 ¹⁸⁾ により得られた式…	ここでは、既往の研究成果 ¹⁹⁾ により得られた式…	1刷

正誤表

書名	令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造
----	---

頁	項目	誤	正	対象刷
249	7.7.2.1 解説	…せん断補強効果があることが明らかにされており ^{19),20)} ,	…せん断補強効果があることが明らかにされており ^{20),21)} ,	1刷
249	7.7.2.1 解説	…せん断補強効果のあることが実験的に認められている ²¹⁾ .	…せん断補強効果のあることが実験的に認められている ²²⁾ .	1刷
249	7.7.2.1 解説	…式(解 7.7.12)で表される ²²⁾ .	…式(解 7.7.12)で表される ²³⁾ .	1刷
250	7.7.2.1 解説	…修正トラス理論に基づく設計せん断耐力算定式(式(解 7.7.13))により算定してよい ²³⁾ .	…修正トラス理論に基づく設計せん断耐力算定式(式(解 7.7.13))により算定してよい ²⁴⁾ .	1刷

正誤表

書名	令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造
----	---

頁	項目	誤	正	対象刷
252	7.7.2.2 (1)	$f_{vtd} = 0.23f'_{cd}{}^{2/3}$	$f_{vtd} = 0.23f'_{cd}{}^{2/3}$	1刷
254	7.7.2.2 解説	…その効果を評価しようとするものである ²⁴⁾ .	…その効果を評価しようとするものである ²⁵⁾ .	1刷
254	7.7.2.2 解説	…圧縮ストラットの角度を用いた方法は精度が向上することが確かめられている ²⁵⁾ .	…圧縮ストラットの角度を用いた方法は精度が向上することが確かめられている ²⁶⁾ .	1刷
254	7.7.2.2 解説	…引張側鋼材として考慮してはならない ²⁶⁾ .	…引張側鋼材として考慮してはならない ²⁷⁾ .	1刷

正誤表

書名	令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造
----	---

頁	項目	誤	正	対象刷
259	7.7.4 解説	既往の研究報告 ^{27),28)} によると、…	既往の研究報告 ^{28),29)} によると、…	1刷
271	7.8.1 解説	…により算定することができる ^{29),30)} 。	…により算定することができる ^{30),31)} 。	1刷
276	7.9.1 解説	…変形性能等が異なることが確かめられている ³¹⁾ 。	…変形性能等が異なることが確かめられている ³²⁾ 。	1刷
279	7.9.2 解説	…正規化累加ひずみエネルギー W_n を指標としてよい ³²⁾ 。	…正規化累加ひずみエネルギー W_n を指標としてよい ³³⁾ 。	1刷

正誤表

書名

令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造

頁	項目	誤	正	対象刷																																																				
280	7.9.2 解説	…半径 150mm の球または円としてよい ³²⁾ 。	…半径 150mm の球または円としてよい ³³⁾ 。	1 刷																																																				
322	解説表 8.8.3	解説表 8.8.3 杭の有効断面および軸方向鉄筋の最小かぶり <table><tr><th colspan="2">杭の種別</th><th>杭体の断面耐力等の算定に用いる有効断面</th><th>軸方向鉄筋の最小かぶり (mm)</th></tr><tr><td rowspan="5">場所打ち杭</td><td>オールケーシング工法</td><td>公称径－20 mm を直径とする円断面</td><td>140</td></tr><tr><td>・自然泥水の場合^{*1}</td><td>公称径を直径とする円断面</td><td>120</td></tr><tr><td>・ベントナイト泥水、ベントナイト系泥水を用いる場合^{*2}</td><td>公称径－50 mm を直径とする円断面</td><td>150</td></tr><tr><td>・素掘および自然泥水の場合^{*1}</td><td>公称径を直径とする円断面</td><td>120</td></tr><tr><td>・ベントナイト泥水、ベントナイト系安定液を用いた場合^{*2}</td><td>公称径－50 mm を直径とする円断面</td><td>150</td></tr><tr><td rowspan="2">深礎杭</td><td>土留め材を用いる場合</td><td colspan="2" rowspan="2">左の値を直径とする円断面</td></tr><tr><td>吹付けコンクリートを用いる場合</td></tr></table> *1 補助的にベントナイトを使用する場合でもベントナイト濃度が3%未満かつ、CMC（ポリマー）濃度が0.6%以下であれば自然泥水としてよい。 *2 ベントナイト濃度が3～10%の場合。	杭の種別		杭体の断面耐力等の算定に用いる有効断面	軸方向鉄筋の最小かぶり (mm)	場所打ち杭	オールケーシング工法	公称径－20 mm を直径とする円断面	140	・自然泥水の場合 ^{*1}	公称径を直径とする円断面	120	・ベントナイト泥水、ベントナイト系泥水を用いる場合 ^{*2}	公称径－50 mm を直径とする円断面	150	・素掘および自然泥水の場合 ^{*1}	公称径を直径とする円断面	120	・ベントナイト泥水、ベントナイト系安定液を用いた場合 ^{*2}	公称径－50 mm を直径とする円断面	150	深礎杭	土留め材を用いる場合	左の値を直径とする円断面		吹付けコンクリートを用いる場合	解説表 8.8.3 杭の有効断面および軸方向鉄筋の最小かぶり <table><tr><th colspan="2">杭の種別</th><th>杭体の断面耐力等の算定に用いる有効断面</th><th>軸方向鉄筋の最小かぶり (mm)</th></tr><tr><td rowspan="5">場所打ち杭</td><td>オールケーシング工法</td><td>公称径－20 mm を直径とする円断面</td><td>140</td></tr><tr><td>・自然泥水の場合^{*1}</td><td>公称径を直径とする円断面</td><td>120</td></tr><tr><td>・ベントナイト泥水、ベントナイト系泥水を用いる場合^{*2}</td><td>公称径－50 mm を直径とする円断面</td><td>150</td></tr><tr><td>・素掘および自然泥水の場合^{*1}</td><td>公称径を直径とする円断面</td><td>120</td></tr><tr><td>・ベントナイト泥水、ベントナイト系安定液を用いた場合^{*2}</td><td>公称径－50 mm を直径とする円断面</td><td>150</td></tr><tr><td rowspan="2">深礎杭</td><td>土留め材を用いる場合</td><td colspan="2">土留め材の最小内径を直径とする円断面</td></tr><tr><td>吹付けコンクリートを用いる場合</td><td colspan="2">吹付けコンクリート表面からの内径を直径とする円断面</td></tr></table> *1 補助的にベントナイトを使用する場合でもベントナイト濃度が3%未満かつ、CMC（ポリマー）濃度が0.6%以下であれば自然泥水としてよい。 *2 ベントナイト濃度が3～10%の場合。	杭の種別		杭体の断面耐力等の算定に用いる有効断面	軸方向鉄筋の最小かぶり (mm)	場所打ち杭	オールケーシング工法	公称径－20 mm を直径とする円断面	140	・自然泥水の場合 ^{*1}	公称径を直径とする円断面	120	・ベントナイト泥水、ベントナイト系泥水を用いる場合 ^{*2}	公称径－50 mm を直径とする円断面	150	・素掘および自然泥水の場合 ^{*1}	公称径を直径とする円断面	120	・ベントナイト泥水、ベントナイト系安定液を用いた場合 ^{*2}	公称径－50 mm を直径とする円断面	150	深礎杭	土留め材を用いる場合	土留め材の最小内径を直径とする円断面		吹付けコンクリートを用いる場合	吹付けコンクリート表面からの内径を直径とする円断面		1 刷
杭の種別		杭体の断面耐力等の算定に用いる有効断面	軸方向鉄筋の最小かぶり (mm)																																																					
場所打ち杭	オールケーシング工法	公称径－20 mm を直径とする円断面	140																																																					
	・自然泥水の場合 ^{*1}	公称径を直径とする円断面	120																																																					
	・ベントナイト泥水、ベントナイト系泥水を用いる場合 ^{*2}	公称径－50 mm を直径とする円断面	150																																																					
	・素掘および自然泥水の場合 ^{*1}	公称径を直径とする円断面	120																																																					
	・ベントナイト泥水、ベントナイト系安定液を用いた場合 ^{*2}	公称径－50 mm を直径とする円断面	150																																																					
深礎杭	土留め材を用いる場合	左の値を直径とする円断面																																																						
	吹付けコンクリートを用いる場合																																																							
杭の種別		杭体の断面耐力等の算定に用いる有効断面	軸方向鉄筋の最小かぶり (mm)																																																					
場所打ち杭	オールケーシング工法	公称径－20 mm を直径とする円断面	140																																																					
	・自然泥水の場合 ^{*1}	公称径を直径とする円断面	120																																																					
	・ベントナイト泥水、ベントナイト系泥水を用いる場合 ^{*2}	公称径－50 mm を直径とする円断面	150																																																					
	・素掘および自然泥水の場合 ^{*1}	公称径を直径とする円断面	120																																																					
	・ベントナイト泥水、ベントナイト系安定液を用いた場合 ^{*2}	公称径－50 mm を直径とする円断面	150																																																					
深礎杭	土留め材を用いる場合	土留め材の最小内径を直径とする円断面																																																						
	吹付けコンクリートを用いる場合	吹付けコンクリート表面からの内径を直径とする円断面																																																						
334	解説表 8.8.9	解説表 8.8.9 直接基礎および杭基礎のフーチングの破壊の照査に用いる設計限界値 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">構造物の要求性能</th><th rowspan="2">限界状態</th><th colspan="2">照査指標</th></tr><tr><th>設計応答値 f_{da}</th><th>設計限界値 f_{da}</th></tr><tr><td rowspan="3">安全性</td><td rowspan="3">フーチングの破壊</td><td>地震時以外</td><td>設計曲げ耐力 M_{ed}</td><td>設計曲げ耐力 M_{ed}</td></tr><tr><td rowspan="2">地震時</td><td>設計せん断耐力 V_{ed}^{*1}</td><td>設計せん断耐力 V_{ed}^{*2}</td></tr><tr><td colspan="2">損傷レベル 1～2</td></tr></table>	構造物の要求性能		限界状態	照査指標		設計応答値 f_{da}	設計限界値 f_{da}	安全性	フーチングの破壊	地震時以外	設計曲げ耐力 M_{ed}	設計曲げ耐力 M_{ed}	地震時	設計せん断耐力 V_{ed} ^{*1}	設計せん断耐力 V_{ed} ^{*2}	損傷レベル 1～2		解説表 8.8.9 直接基礎および杭基礎のフーチングの破壊の照査に用いる設計限界値 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">構造物の要求性能</th><th rowspan="2">限界状態</th><th colspan="2">照査指標</th></tr><tr><th>設計応答値 f_{da}</th><th>設計限界値 f_{da}</th></tr><tr><td rowspan="3">安全性</td><td rowspan="3">フーチングの破壊</td><td>地震時以外</td><td>設計曲げ耐力 M_{ed}</td><td>設計曲げ耐力 M_{ed}</td></tr><tr><td rowspan="2">地震時</td><td>設計せん断耐力 V_{ed}^{*1}</td><td>設計せん断耐力 V_{ed}^{*2}</td></tr><tr><td colspan="2">損傷レベル 1～2</td></tr></table>	構造物の要求性能		限界状態	照査指標		設計応答値 f_{da}	設計限界値 f_{da}	安全性	フーチングの破壊	地震時以外	設計曲げ耐力 M_{ed}	設計曲げ耐力 M_{ed}	地震時	設計せん断耐力 V_{ed} ^{*1}	設計せん断耐力 V_{ed} ^{*2}	損傷レベル 1～2		1 刷																		
構造物の要求性能		限界状態				照査指標																																																		
			設計応答値 f_{da}	設計限界値 f_{da}																																																				
安全性	フーチングの破壊	地震時以外	設計曲げ耐力 M_{ed}	設計曲げ耐力 M_{ed}																																																				
		地震時	設計せん断耐力 V_{ed} ^{*1}	設計せん断耐力 V_{ed} ^{*2}																																																				
			損傷レベル 1～2																																																					
構造物の要求性能		限界状態	照査指標																																																					
			設計応答値 f_{da}	設計限界値 f_{da}																																																				
安全性	フーチングの破壊	地震時以外	設計曲げ耐力 M_{ed}	設計曲げ耐力 M_{ed}																																																				
		地震時	設計せん断耐力 V_{ed} ^{*1}	設計せん断耐力 V_{ed} ^{*2}																																																				
			損傷レベル 1～2																																																					
338	式（解 8.8.6）	$A_w : d \cdot \cot \theta$ 範囲に配置されるせん断補強鉄筋比 (mm ²)	$A_w : d \cdot \cot \theta$ 範囲に配置されるせん断補強鉄筋の総断面積 (mm ²)	1 刷																																																				

正誤表

書名	令和5年1月 鉄道構造物等設計標準・同解説（コンクリート構造物） 第Ⅲ編 コンクリート構造
----	---

頁	項目	誤	正	対象刷
491	付属資料 8-4 3.1.1（7）3)	場所打ち杭の軸方向鉄筋のフーチング内への定着長は、フーチング下端から定着が有効とならない範囲の長さ（付着力の低下区間） l_s に、基本定着長 l_{d02} を加えた長さとする。 l_s は鉄筋の直径の5倍としてよい。	場所打ち杭の軸方向鉄筋のフーチング内への定着長は、フーチング下端から定着が有効とならない範囲の長さ（付着力の低下区間） l' に、基本定着長 l_{d01} を加えた長さとする。 l' は鉄筋の直径の5倍としてよい。	1刷

以上，2023年6月16日追加（第1報）